

【事例報告】

奈多仲間づくり「だぶ」のボランティア活動

奈多仲間づくり「だぶ」 代 表 石橋津宜子氏

私達「だぶ」は福岡市東区奈多という地域で活動しております。

奈多には毎年7月の19・20日志式神社で祇園祭が行われております。志式神社には「志式座」と言う県文化財の指定を受けている野舞台があり、万年願いの奉納芝居が行われます。又、ここにある写真が11月19・20日に開かれる「奈多くんち」です。これは毎年行われていて、千年以上前から伝わる「早魚神事」が無形文化財に指定されています。

奈多仲間づくり事業は、2006年6月1日が始まりです。

最初は福岡市の「福岡市やる気応援」と言う助成事業に応募して、地域で乳幼児子育ての支援を行うボランティア団体（24名の団員）として発足しました。「安心して子育て出来る地域にするために大人が手を繋ぐ地域にしよう！」と、読み聞かせ等を行っている人たちと一緒に始めました。

1回目の事業は、劇団道化の「3匹のこぶた・3人のひょうげもん」を行い、入場者150人。2回目は劇団道化の「のらペンギンのぺんじろう」で、214人でした。3回目は風の子九州の「どんぶらっこ・どんどん亭」をやりました。その時には家族券700円、3歳以上の子ども券は300円の観劇料をいただき公民館でやりました。公民館の講堂は300人しか入りませんが、毎年やっている中で参加する人が増えてきました。

福岡市の助成金は3年で終わり、劇団を呼ぶには結構お金がかかります。3回終わったところで「みんなで話し合って終わるかなー」と思っていました、実行委員会のメンバーの「子ども達の顔を見てたら、やらないかんよ！」との声に押されて継続を決定しました。

継続するにはお金も助成金もないので「どうしようか」と大変困って、自分達で稼ぐ手立てを検討しました。先ず資金を確保するため、夏祭りに参加しました。又、地域の団体に助成金のお願いをする事にしました。地域には自治協議会や社会福祉協議会等があります。それらの団体に活動の必要性を説明し募金のお願いをしました。助成金を頂くという解決策を見つけることができました。

その後、皆で話し合っって新たな団体「奈多仲間づくり「だぶ」」を発足させました。

発足当時は18名でした。「だぶ」という名は、地域の郷土料理の名です。この地域に根付いて行きたいとの思いから「だぶ」と名付けました。活動の目的は、勿論、乳幼児から高齢者までの仲間の輪を作ることが前提ですが、文化活動として地域の仲間の輪（和）を広げて行くことも目的の一つとすることで、意識を少し変えました。

観劇料も話し合いで大人も、3歳以上の子どもも500円としました。

第4回目が風の子九州「にっこりぼっこり座」、5回目が風の子東京「風の一座」を上演しました。6回目は参加者が307人と多く、公民館に入りきれない状況となりました。次回は安心して皆さんに声掛けをして呼ぶことが出来る、小学校の講堂で開催する事を決めました。その後、夏祭りも天気にも左右されるという問題に加え、30万～40万円掛る大きな作品の上演で資金の不足をきたしました。そこで私たちは助成金がある県民文化祭に参加することにしました。小さな団体が申請して受け付けてもらえるか心配で、初回はいろんな資料を持って行ったことを今でも覚えています。

県民文化祭に参加するに際しては、もっと裾野を広げる必要があることに気付き、それまでは

大人だけで作っていたウエルカムボードやチケットの作成に、子ども達の参加も呼びかけ、一緒に作るようになりました。これを機にホームページを開設しました。さらに事業名が「奈多仲間づくり事業」から「地域まるごと観劇会事業」へと変わりました。7回目（平成23年）は風の子北海道の「十二の月の物語」で、410人が参加しました。ところがまた、新たな課題が出てきました。

それは大きな作品が続き「乳幼児の作品がない」ことです。そこで乳幼児が参加しやすい公民館と、小学校の講堂との二つの会場で開催することにしました。

8回目は劇団道化の「とんとんとんの子守歌」を、小学校の講堂で360人参加。ののはなの「ちいちいにんにん」を公民館で、小さい子たち120人の参加がありました。これまでは舞台劇が多かったため、「大型の人形劇が観たい」という意見が上がり、9回目は人形劇団クラルテの「サーカスのライオン」を講堂で行いました。ところが大きな作品をすると資金不足が課題になります。しかも観られる作品から観たい作品に、と要望が出てきます。その上、公民館でのチケットの取り扱いが禁止されてしまいました。

そこで解決策として、子どもと同額だった大人の観劇料500円を、1,000円に値上げし、チケットの取り扱いを地域のお店に置いていただけるように協力をお願いしました。

2軒のお店の方が快く引き受けてくださいました。

記念の10回目は人形劇「あらしの夜に」を講堂で、458人の参加でした。

また、問題の発生です。実行委員が19人から13人になってしまいました。残った人数で頑張れるのか不安ですし、ホームページの管理者もいなくなり閉鎖を余儀なくされました。しかし留まっている訳にはいきません。考えた結果、「自分たちの無理をしない範囲で継続しよう」、「自分たち以外にも協力者をお願いしよう」、「辞めた6人にも協力をお願いしよう」と思い至り、「この事業は継続しないといけない」との結論に達しました。

昨日、11回目の「地域まるごと観劇会」が終わりました。終わった後の感想を書いていると、子ども達やお母さん、高齢者の方の顔が浮かびます。11年間続けてこられたのは、小学校、地域の幼稚園、保育園、お店の方、学生さんと沢山の方のお手伝いがあったからです。また、県民文化祭に参加した時に県職員の方の対応が丁寧で親切で、自分達の活動をすごく褒め、励ましてくださった事が凄い力になりました。誠に有難うございました。

今日は、柴田さんをご出席ですので、お礼を申し上げたいと思います。

2015年にアートマネジメントフォーラムに参加した時のことです。会場で質問をしました。その時、柴田さんから「草に根の各々の活動は小さいけれども、それが重なって大きく成長する」と、私達の活動についてコメントをいただきました。このご丁寧な励ましの言葉は、私たちに大きな支えと勇気となり、今日まで活動を続けることができいております。この場を借りてお礼を申し上げます。

この文化ボランティアフォーラムへの参加は、3回か4回かと思います。

私たちは高齢者が多く活動をどうするか、後継者問題をどうするのが大きな課題です。昨年このフォーラムに参加した際、「13人になり自分との闘いがある」と言ったら、どなたかが「ボランティアだもん、やる気がなければ辞めたらいい、それでいいじゃない」と発言がありました。「そんなに力まないで！」と言ってくださったものと気づき、私は本当に力が湧いてきて「頑張ろう！」という気持ちになりました。

またフォーラム参加の大切さを知りました。今日は、有難うございました。